

国営沖縄記念公園首里城地区整備事業

受賞機関 内閣府沖縄総合事務局国営沖縄記念公園事務所

事業の概要・特徴

首里城は、1429年に成立してから、1879年までの約450年間にわたり、南西諸島に存在した琉球王国の居城として、政治・外交・文化の中心的な場所であった。

しかし、1945年の沖縄戦でアメリカ軍の攻撃により跡形もなく消滅した。その首里城が、国営公園事業(約4ha)として復元整備することが昭和61年に閣議決定され、資料収集、時代考証を経て工事が進められ、城の中心施設である正殿等が完成したことにより、復帰20年目にあたる平成4年11月一部開園した。

なお、平成15年度の京の内が完成したことにより、現在2.5haを開園している。

施設の概要

正殿	木造2層3階建 建築面積 637m ²
	様々な儀式が行われた中心的施設
二階御殿	1階鉄筋コンクリート(外観木造) 2階木造建築 建築面積 268m ²
	国王の日常の居室や寝室
京の内	面積 約7,000m ²
	城内最大の信仰儀式的場所
他の施設	広福門、漏刻門、瑞泉門、右掖門、 系図座・用物座、首里森御嶽、 白銀門、供屋、日影台

事業の効果及び成果

首里城公園が開園したことにより、往時、首里城内で行われていた儀式を再現することが可能となり、史実をふまえ、時代考証を経て、元旦に国王等の参列するなか執り行われた「朝拝御規式」や旧暦八月十五夜、中国皇帝の使者「冊封使」をもてなした冊封七宴のひとつ「御冠船踊り」などを、毎年実施している。このような儀式を再現することにより、首里城の持つ歴史性や存在意識を通して、沖縄の歴史

や文化を広く国民に知ってもらうとともに、沖縄県民に沖縄の歴史・文化の素晴らしさを再認識してもらう契機となった。また、首里城で育まれた琉球舞踊の育成と来園者に対して、沖縄の文化を理解してもらうことを目的に、琉球舞踊も定期的に披露している。

平成12年には、首里城跡をはじめとする9つの施設が「琉球王国のグスク及び関連遺産群」として世界遺産に登録された。また、平成13年度には、琉球列島に眠る歴史・文化遺産などを活用した地域づくり事業・活動を通して、地域住民自ら主体的に地域づくりを発展させていくことを目的とした「琉球歴史回廊構想推進事業」に認定されるなど、沖縄の歴史・文化の拠点となるよう、多様な活用が図られている。なお、首里城公園は、開園以来、県内外から多くの方が来園し、沖縄の入域観光客数の約半分にあたる250万人方が訪れ、沖縄の観光振興を牽引する役割を担う中心的な施設となっている。



朝拝御規式の再現



追加開園した京の内